

記録的な猛暑！が続いている日本列島ですが会員の皆様いかがおすごしでしょうか。清流で涼しいイメージのあった高知県の四万十市で40度を超え一躍有名になりました。一方いろいろな地域で豪雨による被害も報告され日本全体が少しずつ熱帯化しているようです。わが沖縄はどうでしょう。梅雨の時期には豪雨が何度もあり、その合間は比較的涼しかったような気がしました。梅雨明けと同時にまったく雨が降らず一気に暑くなったこともあり厳しい暑さのように感じましたが、例年どおりかなと思ってるところです。ただ、サンサナー（クマゼミ）の鳴き声が早々と聞かれなくなったと感じているのは私だけでしょうか。

9月号は厳かで歴史の重みを伝えつつ煌びやかさもあるランス・ノートルダム大聖堂から始まります。

昨年広報委員になり目をとおすようになった種々の報告記事にはたくさんの情報が詰まっており、医師としての視野を広げるいい材料となります。桑江朝彦先生旭日双光章受章祝賀会では先生の功績のすばらしさとともに沖縄県の医療の歴史を知ることができました。同時に行なわれました琉球大学医学部前医学部長須加原一博先生・新医学部長松下正之先生・附属病院長村山貞之先生激励会では各先生方の思いが述べられ、これからも沖縄県医師会と琉球大学が密に連携していくことの重要性を感じました。

生涯教育コーナー・プライマリケアコーナーは毎回楽しみにしていますが、今回はどの医師でもいつ何時でも遭遇するかもしれないことがくわしくかつわかりやすく解説されています。また、生涯教育制度ハガキによる上位申告者の発表と久手堅先生のコメントが紹介されています。まじめにこつこつと続けられる先生方へ敬意を表します。

インタビューコーナーは八重山病院院長依光たみ枝先生の登場です。離島中核病院の困難さがひしひしと伝わってきます。一方で先生の大きな高い声が響き渡って病院全体が活気に満ち満ちているのではと期待もしているところです。

月間・週間行事コーナー及び発言席では身近な事項について述べられています。私たち医師がしっかり認識し県民へ啓発してまいりましょう。

今回随筆は2編ではありますがいずれも味わい深いものとなっています。

先日岩手県大槌町の先生から夏の便りが届きました。この編集後記を書いているのは本土のお盆が終わり沖縄の旧盆を迎えるころです。大震災からもうすぐ2年半、東北の話題が少なくなっていますが、この時期に自分の先祖に手を合わせるとともに震災犠牲者の方々のご冥福をお祈りしたいものです。

広報委員 富名腰 義裕

